

刊夕日五月一十

常 報 日 新 報

定価 一部全額一ヶ月五拾銭 郵費五銭
 廣告料 五拾二字一行情五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常報日新報社
 印刷所 常報日新報社



心を廻らせ

(一)

真繼 雲山

深重の罪苦に泣く私たち
 末世の凡夫はたゞ念佛の一
 行によつてのみ「殆んど」
 無條件に救はるゝことを明
 かされたものが第十八願で
 ある、しかしそれは全くの
 無條件といふことにはなつ
 てをらぬ、その末句に二類
 の重罪抑止といつて「唯だ
 五逆を正法を誹謗したるも
 のを除く」とあり、この五
 逆と誹謗の罪を犯したも
 のだけは、彌陀の大慈大悲を
 以へしても救ひ取ることが
 出来ぬとの條件附である、
 その二重罪をさへ犯しかね
 まじき私たちが凡夫に取つて
 は聊か氣に喰はぬ條件であ

秋

市原里川

秋もやゝふかめる空の色と見つ大洋の濱
 に潮はなごめる
 いわし船沖にかゝれる海見れば秋の光の
 いや照れるかも
 關本石尊にて
 秋の香のたかきも秋と思ふかな石尊の湯
 に來てあそぶなり
 高久晚霞氏に
 秋みづの澄めるが如き心にて作れる君の
 うたはよき歌

五逆といふのは、父を殺
 し、母を殺し、阿羅漢を殺
 し、僧の和合を破り出家の
 身肉から血を流さしめたも
 のといふのであるから、出

ノート

吸物の汁
 は最初食
 鹽で味を
 つけ、火から下しぎはに
 醤油を少々加へます、醬
 油を入れてから餘り煮る
 と美味しく出来ません、
 一と沸きしたところが丁
 度よろしい

家に危害を加へたものとい
 ふことになり、正法誹謗と
 いふのは正しき佛法をそし
 つたものといふことである
 今のところ私にはさうした
 罪を犯す考へもないが、ナ

ニ時と場合によればそれ以
 上のことも仕かねまじき代
 物である、ヨシ行爲として
 現はれぬにせよ、心に思へ
 ば罪として同格である、佛
 教では上記の二罪を最悪と
 見たのであるが、現代人と
 して常識的に考ふるべき、
 それは悪辣陰險な一切の人
 間悪を罪惡深重地獄一定と
 見たのである。

阿彌陀佛はその救済にあ
 たり、斯く二類抑止の條件
 をつけられたが、その二類
 についての御心遣ひがない
 ならば、抑止の條件を特記
 せらるゝ筈がない、それを
 特に取り立てられたのは是
 非共さういふ劣機を憐れみ
 救ひたいとの御慈悲の現は
 れであつて、その御心もち
 は觀無量壽經の下々品に
 「佛名を稱ふるが故に念々
 の中において八十億劫の生
 死の罪を除く」とありて、

二明日の献立

- 〔朝〕さんびら ござう
- 〔晝〕鶏肉の白米 人蔘
- ねぎ バセリ 鹽
- こしやう ケンチン
- ライス
- 〔晚〕じゃが芋 みつば
- からしあへ

念佛を稱へたものは要する
 に無條件に攝取するといふ
 のが真正正銘の阿彌陀佛の

本音である。
 然らば前段の大無量壽の
 條件附救済と後段觀無量壽
 經の無條件救済とは前後矛
 盾する話となるが、決して
 然らず則ち前段は未だ犯さ
 ざるものに對して「殺人罪
 は死刑に處するぞ」との警
 告であり後段は既に犯して
 仕舞つたものに對する極度

笑話

の状況酌量である。
 A「不眠症でこ
 の四五日一睡も
 しないのだが、
 何かいゝ薬はないかい」
 B「拳闘を始め給へ、僕が
 初めて一撃を食つた時にこ
 ん／＼として一週間ほど眠
 り續けたよ」

旭硝子株式會社製品 板ガラス

- 赤菱印
- 葉子壘
- 硝子食器
- 其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
 仙臺市榮町(電話五九七番)

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
 内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科
 平町田町 電話五二三番

磐城共濟病院案内

院長 醫學博士 石山 謙
 石山 謙 (自宅電話一二四番)

内科	醫學博士 石山 謙
小兒科	醫學博士 佐久間 重
外科	醫學博士 桂 勇二
喉科	醫學士 有馬 雄二
皮膚科	醫學士 五十嵐 雄
産婦人科	醫學士 佐久間 粹
X光線科	醫學士 藤山 慶
衛生試驗所	技師 高石 利雄
藥局	藥劑士 吉本 孝平

診療時刻 午前八時より午後五時迄
 但急患は此の限りに非ず
 平町 磐城共濟會 電話六四一

季節御料理

鳥 松茸 よせなべ 井類種々
 右大々勉強 出前迅速
 ◎滋養豊富! 風味美味!
 是非一度御試食を.....
 大蒲燒。鳥料理
 壽司・折詰仕出し
 魚 柴 田町(電話四二四番)

荆妻貞子事永々病氣之處藥石無効本
 月四日午後一時五分死去致候ニ付此
 段謹告仕候
 追テ葬送ノ儀ハ本七日午後一時自宅出棺長
 橋町性源寺ニ於テ相營ミ可申候
 昭和七年十一月五日
 平町字胡摩澤

- 親戚 花澤 兔五
- 總代 花澤 文庫
- 友人 佐川 重善
- 總代 青沼 太郎
- 荒川 恒次郎

火防の大運動

多大の効を奏す

空陸相呼應してけふの盛観

火防宣傳デーの今日——平警察署では午前六時警鐘を合圖に全署員出動し平消防組全町各區火防組と協力して全町各戸毎に火防を督勵宣傳ビラを配布して防火思想の普及に努めたが此の日晴れの郷土入りをして松崎飛行士のひばり號外一機が空から宣傳ビラを撒布したのを始め新川畔で舉行した平消防組の防火演習、警中、警女、第一、第二、第三各學校の火災避難演習、火防講演等があり空陸からの防火宣傳は非常な効果を奏した

防火の……

演習と講話

けふの平商

平商業學校にては今日五日の防火宣傳デーに際し避難演習を行ひ終つて平消防組頭井上茂作、平警察署長小田部春吉兩氏の防火に對する講演會を催した

警中警女も

防火催し

磐城中學校及び磐城高等女學校にては今日五日の防火宣傳デーに各校長の防火に對する講演避難演習等を行つた

磐灰火防映畫

石城郡内郷村磐城炭礦では従業員、防火思想を圖る爲め六日午後六時半より高坂グラウンドに於いて消防映畫の夕を催すと

野球	既報平商
庭球	業學校に
弓道	ては去る
二日午前	
九時半より	
道各大會を	
は左の如く	
勝戦は来る	
七日舉行する	
△野	
一回戦	
三年3—7	
五年3—2	
二年	
四年1—2	
一年	
職員2—2	
五年	
△庭	
一回戦	
四年3—2	
一年乙	
五年3—0	
二年甲	
三年甲3—2	
二年乙	
三年乙2—3	
二年甲	
二年	
四年1—3	
三年乙	
五年3—2	
三年甲	
△弓	
道	

學校長 乗出す

庭球の試合

平町各中等學校校長は来る十日午後二時より福島に開かれる實業學校、中學校、女學校及び縣廳役員各對抗庭球大會に出場の爲め目下

伏見町長の……

慰安金六千圓

昨日の町會で決定

前平町長伏見彦衛氏の退職慰勞金は昨日の町會で附議されたが原案六千圓に對し

時節柄として五千圓と爲すの修正意見が出たが結局採決の結果十六對十二にて原案通り六千圓を贈呈する事となり今明兩年度に折半して三千圓を贈る由

郡下學生卓球

磐城青年學校卓球部にては来る二十日午前九時より同校に

初等教育

協議々題

石城郡提出

石城教育會にては去る二日委員會を開き来る十一、十二、十三の三日間福島男子師範學校に於て開れる本縣第二回初等教育研究會に左の如く協議事項を提出する事に決定したと

- 一、現代保育思潮に鑑み現行要目活用上の要点如何
- 二、体操成績の考査の具体方案如何
- 三、民衆体位の向上を圖るため体操の一般化に對する良案如何
- 四、虚弱兒童の体操實施に關し特に留意すべき事項如何

農業倉庫

増築地鎮祭

既報石城販賣利用組合では平農業倉庫の傍らに五十坪の二階建倉庫を工費五千圓を以て増築する事となり本日午前九時より地鎮祭を舉行した

花澤夫人逝く

平町會議員花澤五六氏夫人貞子刀自は永らく病氣中の處四日午後一時五分逝去した享年六十二因に葬儀は來七日午後一時胡摩澤の自宅を出棺性源寺に於て營むと

平町物價

白米	一等一キロ、一六〇
	二等同、一五五
	三等同、一五〇
白麥	同、八〇
平麥	同、一一〇
味噌	一貫目、五〇〇
醤油	一升、三五〇
清酒	同、一、〇〇〇
木炭	樫丸一貫目、一八〇
	樫割同、一五〇
	雜光同、一六〇
砂糖	赤白、一五〇
	赤、一二〇
	白、一五〇
豚肉	並上、三〇〇
	同、二〇〇
牛肉	並上、四〇〇
	同、二五〇

空中から

福ビラ

伸好堂勉強

松崎飛行士の郷土訪問は非常な人気を博して居るが極小路書籍文具商伸好堂では同飛行士の飛來を好機として平町の上空から宣傳ビラを撒布する事になつたが同ビラの内五十枚に福ビラがあり其のビラを拾つて同店に届けた方には美麗な來の日記を進呈すると

祝十週年

常磐毎日印刷株式會社
監査役 門傳清吾
辯護士 電話二四番

一内科醫學博士 難波陸
平新川端(電話五〇二番)

味噌醸造元 小野園次郎
平長橋町(電話二五番)

高橋龜松
平白銀町(電話六三八番)

上田外科醫院
上田耕作
平南町(電二九番)

多田井笑次郎
平大工町(電話五九一番)

遠藤俊一郎
江名町

大和田耳鼻科醫院
大和田郡
平南町(電一七〇番)

味噌醸造元 吉田三郎
内郷村小島

平看護婦會長 清野キヨ
平南町(電話三〇七番)

中村齒科醫院
中村文
平南町

待望の松崎飛行士

郷土入り成功

小田部署長井上組頭同乗し 平町上空から模擬爆弾投下

朗かな爆音に銀翼輝く

待望の松崎飛行士の郷土訪問飛行：平町一丁目出身二等飛行士松崎二郎君は今日午前十時四十分木下高橋兩飛行士操縦のアプロ機に誘導され澄み切つた秋晴れの碧空に愛機

ひばり號 (ニューボ)

ール式)の銀翼を燦やかさせ爆音も朗かに平上空に其の雄姿を現はし數回の低空旋回飛行を試みて町民の熱狂的歡迎に報ひ四倉海岸に向つて飛去り豫定通り同午前十一時

同海岸に 着陸見事晴

れの郷土入りに成功した尚松崎飛行士は午後一時再び

毎夜五秒間

全山眞ッ暗

磐炭の燈火管制

石城郡内郷村磐城炭礦では本日の防火デーをトして全従業員の燈火管制を徹底せしめる爲め今夕七時より五秒間全山の電燈を全部消燈するが當分毎夜續行する事になつたと

高野へ遠足

内郷青年團で

石城郡内郷村青年團では来る十三日臨時總會後同村高野附近へ秋期遠足を行ふ筈

存立期間延期

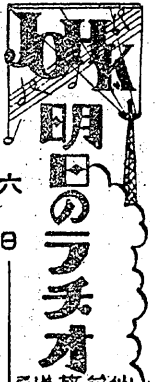
石城郡勿來信用組合では去る一日小學校に於いて臨時總會を開き從來の組合存立期間廿ヶ年を五ヶ年に延長する件を満場一致可決し直に縣知事宛に認可申請した

セメント降灰被害 會社から千五百圓

下仁井田部落は憤慨

更に嚴談を持ち込む

既報石城郡四倉町磐城セメント降灰問題は下仁井田上仁井田より區長加澤助治氏下仁井田より地主代表酒井喜惣治、根本甚吾、鈴木武平等が去る卅日工業所に子室所長と面會損害賠償金として上仁井田へ三千圓、下仁井田へ五千圓の提供方を交渉した結果會社側では翌卅一日上仁井田の堤山額三千圓に對して千五百圓支拂ふべき旨回答したが下仁井田側の要求は多額に失すとはねつた爲め同部落



明日のラジオ

六日

今晚も明日北風の風情たり曇つたり天気良し

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- ハートモカ合奏 山形商業學校音楽部 指揮百足憲吾
- 後六、二五 英語講座 中等科(三ノ八)田邊隆次
- 後七、三〇 講演「火災豫防について」内務大臣男爵山本達雄
- 後八、〇〇 ラヂオドラマ
- 火防少年演劇 仙臺消防組大倉澄治外大せ
- 後八、三〇 但謡「火伏虎舞」解説中新田警察署長

明日の部

- 前九、一〇 營養料理「小カブの味噌汁」干セマイト油揚の炊煮」營養研究所
- 前九、三〇 子供の時間
- お話「氣象通報の聴き方」

無免許周旋公判

東京市牛込區築地十六番地庄三郎妻無職赤津ムメ(四九)は業務上横領罪として本日平區裁判所に於て竹内判事係り上田檢事立會公判開廷事實の訊問あつたが被告は去月勿來町料理店一力事鈴木己之太郎方に目下他に奉公中の酌婦を周旋すると前借金百圓を受取り横領したものであると

茶の湯、音楽

作品の展覧會等

磐城高女の今月行事

磐城高等女學校にては来る十二日茶の湯の會、十九日父兄會及び生徒作品展覧會二十六日音楽會を各々催すと

戸籍吏會開く 平區

裁判所管内石城、双葉、相馬三郡の各町村戸籍吏員會は来る九、十の兩日平第三

旭神社 最初の誓言者

不業の影を...

神前に寫さずとて

平署構内に新らたに鎮座した旭神社の神前にけふ別項の潜り桂庵佐川徳之助が引すえられて左記の誓言簿に署名させられた

十四名の娘を賣る

無免許周旋屋

石城郡内郷村字綴居住佐川徳之助(四九)は無免許で同村宮の長藏二女糸賀フデ(二八)外十四名を静岡縣某製糸工場に住込ませ手数料と稱して三十圓宛を横領して居た事發覺三日平署に檢舉され

豊間に劇場

豊盛座起工

石城郡豊間村の有志間では豫てより劇場の設置に就いて計劃中であつたが資金三



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第九十二席 平手造酒

小見川の牛松

小見川の料理店內田屋の

おかみが繁藏に

女「まア笹川の親分どちら

へお歸りでございますか

と聲をかけた

繁「これはおかみさん、様

子の好い年増が立つてゐた

から誰かと思つたが前か

いつも若いのこれで孫の三

人もあらうとは思へぬえ

女「まあ親分そんな御冗談

を仰しやつて

繁「お前に聲をかけられて

は素通りは出来ぬ、一杯や

つて行くかな

女「さあどうぞ此方へお上

り下さいまし、おきよや笹

川の親分に新助さんが出

でなすつたよ

きよ「これは入らつしやい

まし、オヤ佐原の岸島屋さ

んから、左様でございます

か

繁「涼しい所へ案内してく

んな

きよ「此方が宜しうござい

ませう

東と南を一杯に受けた六

疊に併れて来た、直に盥に

水を汲んで持つて来る、二

人は顔を洗い身體を拭ひ

繁「ア、好い心地だ、う

是れお月見が来ると云ふに

仰しやつてあの通り大駢聲

で寝て居りますよ

繁「何處の人だ」

きよ「牛親分でございます

す

繁「牛親分、牛や馬に親分

はなからう聞いた事なねえ

が、新助知つて居るか

新「へエこの小見川でい、

男でございます

繁「さうか起すがよい、あ

の駢聲が氣になつていけね

え、名前は牛でも駢は慕の

やうだ、早く起して来い

きよ「それでは起して参り

ませう

女中が向ふの部屋に参り

る所をお前に起された

きよ「まああなたは御冗談

者ですよ

牛「何か用か」

きよ「お向ふのお座敷にお

在なざるお客様が起して来

いと仰しやいますから

牛「何だと向ふにゐるお客

が俺を起して来いと云つた

と、筈棒奴、大それたこと

を云やアがるな、大方駢

が邪魔になるとでも云つた

のであらう

きよ「氣になつて仕方がな

いと申しまして

片「馬鹿にするねえ、俺を

誰だと思ふ、小見川の片松

だぞ、一體向ふ座敷に居る

お客様は何者だ

きよ「笹川の親分ござい

ますよ

牛「エッ笹川の繁藏どん

そいつは氣が附かなかつた

尤も氣の附く譯はねえ此方

は寝てゐたからな、ア、眠

い〜」

と牛松は飛起きて冷たい

水で洗面をいたし鳴海絞

の浴衣を着て繁藏の座敷に

来た

牛「笹川の貸元、久しくお

目にかゝりません、一昨年



と女中は下つて行く、暫

らくするとそれへ運んで来

たは利根川名産鯛の洗肉、

女中の酌で飲んでゐると向

ふの部屋から洩れて来る駢

聲

繁「誰か寝てゐるか」

きよ「お客様でございます

がね、少し寝かしてぐれと

梅毒 淋病

淋病 皮膚病 婦人病 腸胃病 腸虫病

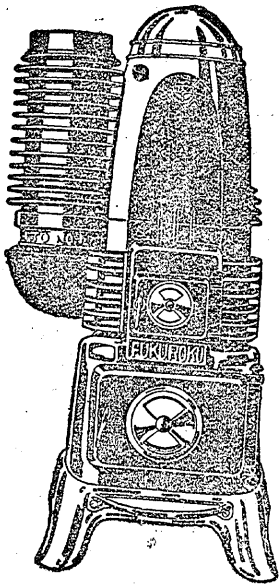
門專 院醫科 院醫科 院醫科

院醫科 院醫科 院醫科

漆器の御買入時

漆器は空前の大暴落を致して
居ります。再び得難き最低絶
好の御買入時です。
(共) 漆器を専門に在庫品
は豊富に取揃へ
各位の御満足を得るに努力致して居り
ます此の絶好機に御求めを切に御奨め
申上げます。御満足を得らるやう！如
何様にも御相談に應じます故是非一度
御照會を。

各産漆器専門卸小賣
共榮漆器店
(平町3丁目36元郵便局裏通)
店員募集 十二三才...小店員優遇す
三十才迄...外交員



嚴冬の征服者
福祿ストロープ
戸毎に福祿！四海は常春!!!

電話三七番へ

カタログ御申越下さい早速持参致します
福祿ストロープ福島縣一手販賣

阿部石炭商店
平停車場前

外科

X 光線科
性病科
外科科

意隨院入

平町南町

安齊外科醫院
電話四七五番

平町南町
電話三〇七番

看護婦急派
の求めに應
じます